

岡田智之 学位論文審査要旨

主 査 山 崎 章
副主査 梅 北 善 久
同 磯 本 一

主論文

IL-8 and LYPD8 expression levels are associated with the inflammatory response in the colon of patients with ulcerative colitis

(IL-8とLYPD8の発現は潰瘍性大腸炎患者の大腸における炎症反応と関連している)

(著者：岡田智之、神田努、上田直樹、池淵雄一郎、橋口慶一、中尾一彦、磯本一)

令和2年 Biomedical Reports 12巻 193頁～198頁

参考論文

1. 超音波内視鏡での詳細な観察により早期診断しえた早期胆嚢癌の1例

(著者：岡田智之、武田洋平、濱本航、斧山巧、後藤大輔、三村憲一、満田朱理、山根哲実、田中久雄)

平成28年 鳥取赤十字病院医学雑誌 25巻 13頁～16頁

審査結果の要旨

本研究は潰瘍性大腸炎患者生検検体を用いて、患者背景による違いと病変部と非病変部間でのIL-8、MUC2、LYPD8のmRNA発現を比較し、検体を病理組織学的な炎症の程度で分類し、IL-8、MUC2、LYPD8発現との相関性を検討したものである。その結果、患者背景ではMUC2に関して男性が女性より発現が増加しており、再燃寛解型が他の病型と比較して発現が増加していた。また、病変部と非病変部間では、病変部に関してIL-8発現が増加し、LYPD8発現が低下していた。病理組織学的な炎症の強さとIL-8発現の間には正の相関がみられ、LYPD8発現の間には負の相関がみられた。この結果からIL-8発現が患者背景の影響を受けず炎症を反映している可能性があり、LYPD8発現が粘膜の炎症マーカーとして有用である可能性が示唆された。本論文の内容は、潰瘍性大腸炎治療効果判定の指標としてのIL-8、LYPD8発現の有用性を示唆するものであり、明らかに学術水準を高めたものと認める。